

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-326395

(43) 公開日 平成7年(1995)12月12日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 1 M 14/00	Z			
F 0 2 M 27/04	Z			

審査請求 未請求 請求項の数 4 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平6-154116

(22) 出願日 平成6年(1994)5月31日

(71) 出願人 594079039

原 雄次

愛知県葉栗郡木曾川町大字黒田字蔵ノ浦  
136-1

(72) 発明者 原 雄次

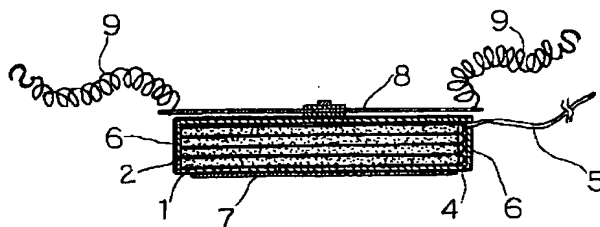
愛知県葉栗郡木曾川町大字黒田字蔵ノ浦  
136-1

(54) 【発明の名称】 エネルギー供給装置

(57) 【要約】

【目的】 燃焼効率を高める装置等において、一切の電池等を用いることなくその性能をパワーアップさせると同時に、作用のばらつきをなくしてより安定的かつ継続的に機能が発揮できるような一種のエネルギー供給装置を提供する。

【構成】 高度に微粉化したセラミックス原料を混入したシリコン等よりなる絶縁マットと金属板とを交互に積層し、各金属板を電線で連結して電線コードを引き出し、本体を絶縁体と導体が積層されたケースで覆う。



**【特許請求の範囲】**

【請求項 1】微粉化したセラミックス原料の混入した絶縁性マットと導電性の金属板とを交互に積層すると共に各金属板の端部を電線で接続し、その全体を絶縁性のケースで覆い、該金属板又は該電線に接続した電線コードをケース外に出して片電極としたことを特徴とするエネルギー供給装置。

【請求項 2】「絶縁性マット」を粒径  $1\mu$  以下のセラミックス原料が全体の  $10\sim 40$  重量%混合したシリコンゴムマットとし、「金属板」を銅板とした「請求項 1」に記載のエネルギー供給装置。

【請求項 3】「絶縁性のケース」において電波遮断性の導電材を全面的に積層した「請求項 1」ないし「請求項 2」に記載のエネルギー供給装置。

【請求項 4】「絶縁性マット」においてカーボンを含めた  $1\sim 10$  重量%混合した「請求項 1」「請求項 2」「請求項 3」に記載のエネルギー供給装置。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

【産業上の利用分野】この発明は広い意味での様々なエネルギー補給ないし活性化に関わるものであるが、特に本発明者が既に出願した特願平 6-99091（液体燃料の活性化装置及び方法）の補助装置として代表的に用いられるものである。

**【0002】**

【従来の技術】様々なエネルギー供給（補給）装置のうちでコンパクトなものとしては電池が先ず挙げられるが、これには充電の可否により一次電池と二次電池があり、他に化学反応エネルギーを取り出すものや、ヒートポンプや光ファイバー等で外部のエネルギーを導入するもの等が広く知られている。

**【0003】**

【発明が解決しようとする課題】エネルギー供給装置の必要性については必ずしも大きなエネルギー源としての場合だけでなく、たとえ微弱であっても何らかの形で対象物を励起ないし活性化させるようなものも含まれる。例えば本発明者による前記の液体燃料活性化装置については、既に数多くの実施テストで大きな効果が生じることを確認しているが、その効果を一層大きく安定したものにするには、それにエネルギーを供給するような、例えば加熱器や熱伝導体のようなものを要したが、これ等は通常に市販されている面状発熱体や熱良導体の物性の範囲に限られるものであった。

【0004】これ等のエネルギー補給具等は、加熱型のものは電池等の高コストなエネルギー源を要すると同時に、適切な温度管理が難しく、消耗するか或いはソーラーのようなものは暗所では使えず、熱伝導材を用いる場合も、その効果が甚だ僅少であるという問題点があった。本発明はかかる問題点を解決することを課題とする。

**【0005】**

【課題を解決するための手段】微粉化したセラミックス原料の混入した絶縁性マット（1）と導電性の金属板（2）とを交互に積層すると共に各金属板（2）の端部を電線（3）で接続し、その全体を絶縁性のケース（4）で覆い、該金属板（2）又は該電線（3）に接続した電線コード（5）をケース外に出して片電極とする。その端を対象物に接続する訳である。

【0006】ここでいう「セラミックス原料」とは、アルミナ、シリカ、ジルコニウム、二酸化マグネシウム、チタン等のように通常、セラミックスの原料として広範に用いられているものをいう。又、絶縁性マット（1）は約 3mm 厚のシリコンゴムを主材にすることが望ましく、これに粒径  $1\mu$  以下の前記セラミックス原料を全体の  $10\sim 40$  重量%混合させるのがよいが、特に粒径はできるだけ細かく、 $0.01\sim 0.1\mu$  にしてこれを  $20\%$  程度含ませるようにするのが一層良い。更に金属板（2）として典型的なものは厚さ  $0.2\text{mm}$  の銅板である。

【0007】又、絶縁性のケース（4）において、例えばアルミニウムや銅のような電波遮断性の導電材（6）を（主に外側に）全面的に積層して覆うことが機能の安定を保つ上で重要であることも判明した。なお絶縁性材料は普通のプラスチックでよい。

【0008】更に絶縁性マット（1）において（粉末状の）カーボンを含めた  $1\sim 10$ （望ましくは  $5$ ）重量%加えると、エネルギーの取り出し効率が高まることも判明した。

【0009】実際に本装置を使うには、例えば車両のシリンダヘッド付近でエンジン廃熱で高温になるものの冷却水で冷やされて  $90\sim 100^\circ\text{C}$  前後になる所に設置することが望ましい。その固定方法としては、例えば高耐久性の粘着シート（7）を予め底部に貼着しておき、保護紙を剥がして所定の平坦な場所に貼着したり、或いは上部に孔付ステー（8）及び S カン付スプリング（9）等を設けておいて、任意のエンジン回りのステー、ボルト、はり出し等に引っ掛ける等の方法が考えられる。

【0010】このようにして高温部に設置された本装置の唯一つの電極である電線コード（5）の端を、送油管に取り付けられた燃料活性化装置（特願平 6-99091）を覆う金属箔等に接続して使用するものとする。

**【0011】**

【作用】本発明によって現実に顕著な効果が生じる以上、そこには必ず何らかの理論的説明が成り立ちうる筈であるが、実際問題として現在の科学そのものが未だ未完成で、明らかに存在することがもはや公然の事実となっている宇宙エネルギーないしフリーエネルギーというものを解明できていないために、どうしても既成の公認された概念、例えば遠赤外線エネルギーとかイオン励起作用による活性化、導電体等によるイオン化等の言葉で

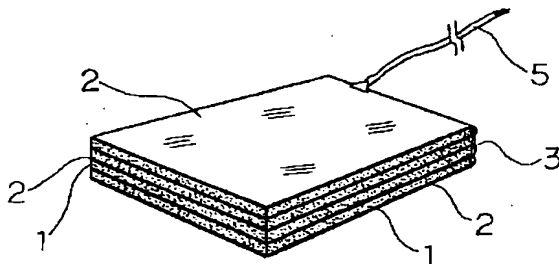
説明することにならざるを得ない。

【0012】すなわち推定ではあるが、高温の環境に置かれた前記の金属板(2)と絶縁性マット(1)との交互積層物においては、先ず熱良導体である金属板(2)の方が先に昇温して絶縁性マット(1)との間に温度差が生じる。ここにおいて何らかの電位差も生じるものと考えられるが、それはきわめて微弱であると同時に、おそらくは鉱物(セラミックス原料)の微粉末も作用して、一種の共振電場が発生し、これが導線を伝わって所望する燃料の活性化装置と共振し、これをパワーアップないし安定化させるものと考えられる。

【0013】

【実施例】平均粒径0.1 $\mu$ mのシリカ及びアルミナ等量混合の微粉末20W%とシリコンゴム75W%とカーボン5W%とからなる3mm厚の絶縁性マット(1)4枚と、0.2mm厚の銅板(2)5枚とを交互に重ねて、それぞれの寸法を100mm $\times$ 65mmとし、各銅板の端を0.5mm径の銅線(3)で連結すると共に1.5m長の電線コード(5)を接続し、丁度これが収まるような外箱をジュラコン等の耐熱性プラスチックで成形し、その外側をアルミ製ケースで覆い、底部にマット状の耐熱性両面粘着シート及び保護紙を貼って製品とする。

【図1】



る。

【0014】

【発明の効果】以上述べたように、本発明によれば一切の電池等の有料なエネルギー源を要することがなく、廃熱のみを利用して一種のパワーないしエネルギーを送り込むことができ、対象物となる活性化装置等の作用をより安定的かつ継続的に助長し、働きのばらつきを少なくして再現性を高めることができる等の効果がある。

【図面の簡単な説明】

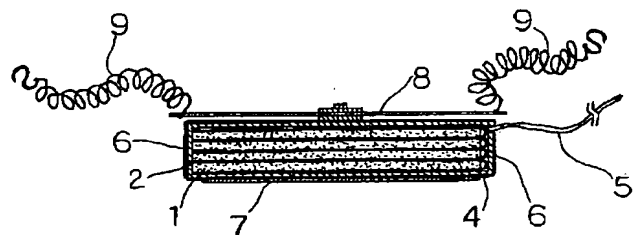
【図1】本発明一例の内容物を示す見取図

【図2】本発明一例の全体の側断面図

【符号の説明】

- 1 ……絶縁性マット
- 2 ……金属板
- 3 ……電線
- 4 ……絶縁性のケース
- 5 ……電線コード
- 6 ……電波遮断性の導電材
- 7 ……粘着シート
- 8 ……孔付ステー
- 9 ……Sカン付スプリング

【図2】



## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-326395

(43)Date of publication of application : 12.12.1995

(51)Int.Cl.

H01M 14/00

F02M 27/04

(21)Application number : 06-154116

(71)Applicant : HARA YUJI

(22)Date of filing : 31.05.1994

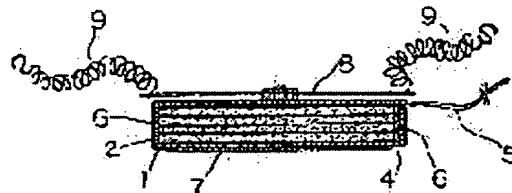
(72)Inventor : HARA YUJI

## (54) ENERGY FEED DEVICE

## (57)Abstract:

PURPOSE: To provide a kind of an energy feed device by alternately stacking an insulation mat mixed with pulverized ceramic and a conductive metal sheet, connecting the end of each metal sheet with a wire and, then, leading the wire outside an insulation case for use as a single electrode.

CONSTITUTION: An insulation mat 1 of 3mm thickness, for example, formed out of 20wt.% of the equivalent mixed pulverized powder of 0.1 $\mu$  silica and alumina, 75wt.% of silicone rubber and 5wt.% of carbon is prepared, and four such mats 1 are clamped between 2mm thick copper sheets 2. Then, the ends of the copper sheets 2 are connected to each other with a copper wire of 0.5mm diameter, and an electrical cord 5 is connected to the wire. Also, an outer casing 4 is formed out of heat resistant plastic such as Duracon and the external surface thereof is covered with an aluminum case 6. Then, a mat type heat resistant double-sided adhesive sheet 7 and a protective paper sheet are attached to the bottom of the case 6, thereby providing a product. A perforated stay 8 and a spring 9 with an S-hook may be provided, instead of the sheet 7, and hooked to a stay or the like around an engine.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office